寄贈本図書館づくりのマネジメント
～安芸市畑山地区における「創作の里づくり」の一環として～

社会システム工学科　4 年
1070529　原　壽里

1.はじめに
1.1 研究の背景
高知県東部は高齢化や人口減少により、廃校となる学校が増加している。

廃校となった校舎を有効活用し、地域の活性化に繋げようと、安芸市畑山地区では「創作の里づくり」という活動が行われている。

1.2 研究の目的
本研究では安芸市畑山地区で取り組まれている「創作の里づくり」の活動の一環として行われている「寄贈本図書館づくり」の活動をまとめ、マネジメントの観点から活動の成果と今後の課題を考察する事を目的とする。

1.3 研究の全体構成
研究の全体構成は以下のようになっている

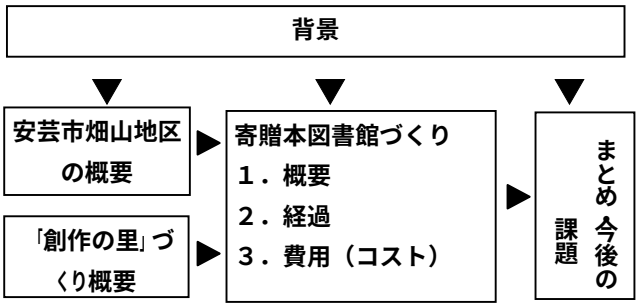


図 1.研究の全体構成

2．安芸市畑山地区の概要
2.1 安芸市畑山地区の位置

図 2.安芸市畑山地区の位置

高知県東部に位置する安芸市は面積 317.34 ㎢、人口約 21,000 人（2004 年 7 月 13 日現在）、農業の盛んな市である。安芸市街地から続く県道 210 号を車で約 40 分程行った、自然豊かな山間に畑山地区はある。畑山地区を流れる安芸川は平成 13 年度環境庁発表の環境基準満足度上位水で第 4 位に選ばれた程、水質が良い。

安芸市内を巡回する「元気バス」は畑山地区にも停車するが便数が少なく、畑山地区には車を所有していない世帯もあり、週に数回移動販売の車が来る。

県道 210 号はカーブが多いうえ道が狭く、交通の利便性は悪い。災害が起きた際に孤立してしまう可能性がある。

2.2 安芸市畑山地区の人口
畑山地区の人口は 44 世帯、83 人（2004 年 2 月 25 日現在）である。うち 65 歳以上の高齢者は 55 人で、高齢化率は 66.3%である。高知県全体の高齢化率は 25.3%（2004 年 5 月 1 日現在）なので、畑山地区では非常に高齢化が進んでいると言える。

1996 年には児童数の減少により、畑山小中学校が廃校となった。

2.3 安芸市畑山地区の特産品等
2.3.1 土佐ジローとゆず
畑山地区は土佐ジローの産地である。。豊かな自然の中で放し飼いで育った土佐ジローの肉や卵は、畑山地区内にある加工・処理されて県内外へ販売されている。手間ひまかけて育てている為、大量生産できない。

またゆずの栽培が盛んで、地元の人達の収入源となっているが、農地の所有規模が小規模な為、所得は少ない。農地が少ない事と就農者の高齢化により収入は少ない状態である。家業の後継者がいない為、現在農地として利用されている土地も荒地や空地になりかねない。

2.3.2 畑山温泉
畑山地区には畑山温泉「憩いの里」がある。昭和 57 年、地域の観光と福祉の拠点にと、市が旧畑山小中学校跡地に温泉と宿泊施設を開業した。利用者は年間 3,000 人ほどで推移していたが、一億六千四百万円の累積赤字を抱え、平成 17 年より指定管理者制度を導入し、新たな委託先として地元住民が設立した有限会社「はたやま夢楽」が運営している。衰退する地域を活性化する為の起爆剤の一つとして、利

用者確保に努めている。

3.「創作の里づくり」の概要

3.1「創作の里づくり」の目的

「創作の里づくり」は、高知県東部で過疎化や高齢化によって廃校になる学校や空家が増加している事を背景に、「過疎地域や山間部における交流人口を増やす為のモデルづくり」を目的として行われている。「創作の里づくり」によって過疎地域を活性化させ、新しいコミュニティの場をつくり交流人口を増加させる為の活動を計画している。

3.2「創作の里づくり」の計画内容

2004 年 10 月に高知県東部地域を活性化させる為の勉強会が設立された。その後何度か勉強会を重ね、2005 年 1 月に過疎地域や山間部における交流人口を増やす為のモデルづくりとして、「創作の里」を展開していく事が決定し、そしてその対象地区として安芸市畑山地区が選ばれた。

「創作の里」とは【安芸市畑山地区の資源をそのまま活かして、「知る」「学ぶ」「考える」「創る」を楽しもう】をコンセプトとしたプロジェクトである。

具体的な内容としては、廃校となった旧畑山小中学校を寄贈本図書館として再利用する事や、空地や空家を創作活動の場（アトリエ）として提供する事などが計画されている。寄贈本図書館は創作の里の拠点となる施設である。

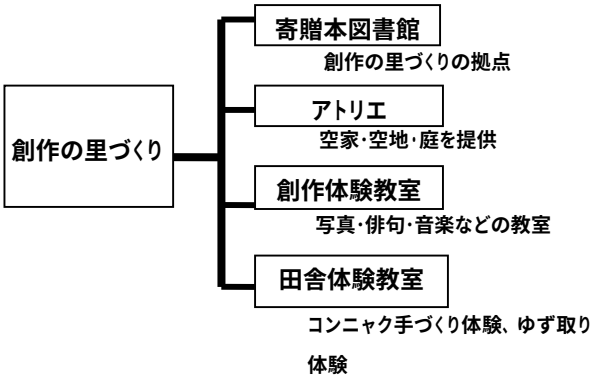


図 3.「創作の里づくり」の計画内容

3.3「創作の里づくり」の運営体制

地区の住民だけでなく、行政やＮＰＯ、民間団体や専門家とも連携しながら運営している。

運営・管理の中心となっている「はたやま夢楽実行委員会」は地元住民たちが、町おこしを目的に設立した団体である。

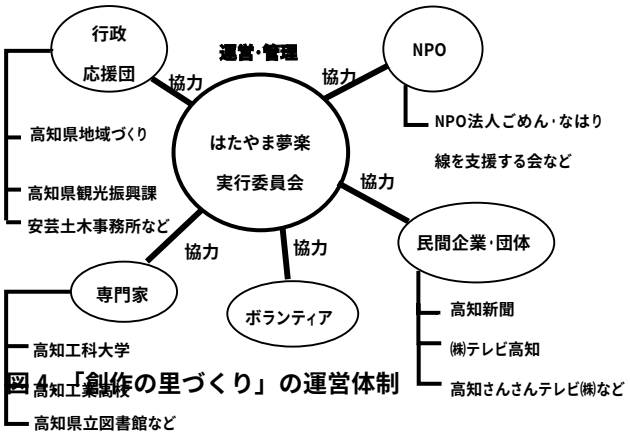


図 4.「創作の里づくり」の運営体制

4.「寄贈本図書館」づくり

4.1「寄贈本図書館」づくりの概要

寄贈本図書館は創作の里の拠点となる施設である。

旧畑山小中学校は廃校後、二階部分はスタジオとして利用され、一階部分の一部は地区の公民館として利用されている。寄贈本図書館として利用するのは一階部分の事務室、オーディオライブラリー、コンピュータールーム資料室、会議室、廊下である。

寄贈本図書館の内部空間と図書館家具の設計は高知工科大学が担当し、図書館家具の製作は高知工業高校建築科の学生が担当する。

寄贈本図書館の蔵書は、マスコミ（新聞・テレビ）を中心に全国に呼びかけ、古本や不要になった本などを無償で譲ってもらう。本の提供方法は宅配や持ち込みが基本で、本を提供してくれた人には畑山温泉の入浴券をプレゼントする。

2005 年 12 月 10 日に仮オープンした。

4.2「寄贈本図書館」づくりの経過

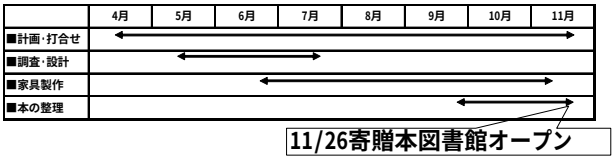


表 1.「寄贈本図書館」づくりの大まかな流れ

■高知工科大学・高知工業高校との協議・打合せ会
第 1 回　4 月 26 日、第 2 回　5 月 17 日
第 3 回　6 月 7 日、第 4 回　6 月 14 日
第 5 回　6 月 21 日、第 6 回　7 月 5 日
第 7 回　7 月 26 日、第 8 回　11 月 1 日
場所：高知工業高校
■調査・計測等
第 1 回　6 月 1 日、第 2 回　6 月 16 日

第 3 回　6 月 28 日、第 4 回　7 月 25 日
場所：安芸市畑山地区
■現地作業等
第 1 回 8 月 2 日、 第 2 回 9 月 27 日
第 3 回 10 月 25 日、 第 4 回 11 月 8 日
第 5 回 11 月 15 日、 第 6 回 11 月 19 日
第 7 回 11 月 22 日、 第 8 回 11 月 25 日
場所：安芸市畑山地区
■ボランティアによる本の整理作業
第 1 回 10 月 7 日、第 2 回 10 月 21 日
第 3 回 11 月 5 日、第 4 回 11 月 18 日
場所：安芸市畑山地区
■イベント
・読み聞かせ
第 1 回 7 月 15 日、第 2 回　8 月 19 日
第 3 回 9 月 24 日、第 4 回 10 月 15 日
第 6 回 11 月 26 日
・オープニングイベント　11 月 26 日
場所：安芸市畑山地区

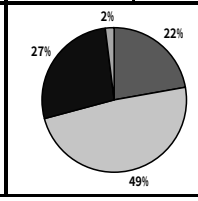
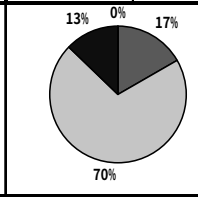
4.3「寄贈本図書館」づくりに用いた費用

寄贈本図書館のオープンまでにかかった経費は以下の用になっている。

表 2.経費の支出内訳

資金手当		内訳(資金用途)	
当ファンド助成金	1,200,000 円	交通費	139,402 円
		人件費	154,200
		賃貸費	69,300
		材料費	630,772
		消耗備品費	5,016
		通信費	260
		工具代	1,050
		委託費	200,000
収入合計	1,200,000 円	支出合計	1,200,000 円

表 3.寄贈本図書館づくりにかかった費用と購入した場合の費用の比較

項目	家具を購入した場合	(%)	今回かかった費用	(%)
設計監理	600,000 円	(22.2 %)	200,000 円	(16.7 %)
図書館家具費	1,311,000 円	(48.6 %)	845,540 円	(70.5 %)
人件費	739,000 円	(27.4 %)	154,200 円	(12.9 %)
事務費 (通信費を含む)	50,000 円	(1.9 %)	260 円	(0.0 %)
合計	2,700,000 円	(100.0 %)	1,200,000 円	(100.0 %)
グラフ				

寄贈本図書館づくりは内部空間と図書館家具の設計を高知工科大学に依頼し、図書館家具は高知工業高校建築科の学生が製作したので、図書館家具を購入した場合よりも安く仕上げる事ができた。

また本の整理などの作業はボランティアや地元の住民達に協力してもらった為、人件費を大幅減らす事が出来た。計画全体で 1,450,200 円の支出を抑える事が出来た。

各総費用の支出割合を比較してみると、自分達で家具を製作した今回の場合、総費用の約 90%を図書館家具費と人件費が占めている。図書館家具を購入した場合は総費用の約 70%が図書館家具費と人件費となっている。このことから、少ない費用を図書館環境整備の為に有効に使用できている事が分かる。

図書館家具を購入した場合より、設計管理費は 66.7%、図書館家具購入費は 35.5%、人件費 79.1%、事務費 99.5%、計画全体で 55.6%安く仕上げる事ができた。

5.「寄贈本図書館」の今後の課題

5.1 管理体制の整備

現在寄贈本図書館は土日祝日はオープンしている。平日は畑山温泉に鍵を借りに行けば利用する事ができる（但し畑山温泉は水曜定休日)。図書館に常駐している人や図書館司書がいない為、本の貸出や本の検索ができない。貸出方法や返却方法も明確に定まっていない。今後は、図書館としての機能を充実させていく必要がある。

管理体制と図書館の利用方法を以下の図のように提案する。

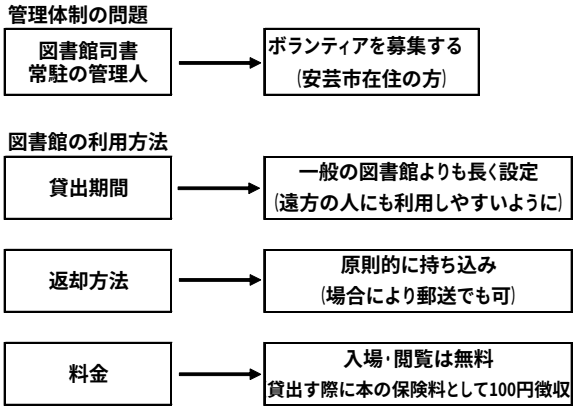


図 5.管理体制の整備内容

5.2 運営費の捻出

寄贈本図書館づくりはファンドの助成金によって進められた。

今後は寄贈本図書館以外の「創作の里」づくりを進めていかなければならないうえ、寄贈本図書館の維持費や管理費も必要となってくる。そうした費用

をどう捻出していくか考えなければならない。

年間の支出と収入予想は以下の表 4、表 5 の通りである。

表 4.年間支出額予想

項目	金額
人件費(交通費のみ支給)	350,000
建物設備維持監理費（消耗備品購入費、水道光熱費他）	150,000
書籍購入費	0
計	500,000

表 5.年間収入額予想

項目	金額
本の保険料	400,000
イベント等使用料	100,000
計	500,000

図書館の常駐管理人・図書館司書は、安芸市内在住の方を対象にボランティアで 2 名程度募集し、交通費のみを支給するものとして人件費を算出した。また寄贈本図書館の書籍は、定期的に全国に呼びかけ古本を募集するものとし、新たな書籍の購入費はないものとする。その結果、年間支出は計 1,350,000 円となる。

寄贈本図書館の年間収入として、本の保険料とイベント等の会場使用料として約 920,000 円予想される。さらにファンドから助成金 500,000 円給付されるものとし、年間収入は計 1,418,000 円となり、寄贈本図書館の運営が可能となる。

5.3 寄贈本図書館と地域の活性化の関係

寄贈本図書館を地域の活性化に繋げていくには、定期的に多くの人を呼び込む事が重要となってくる。その為にはまず、寄贈本図書館の存在を知ってもらう事と、継続的な利用者を増加させなければならない。

継続的な利用者を増やす為に、ポイントカードを導入したり(**図 6.**参照)、定期的なイベントを開催したり（**図 7.参照**）する。

寄贈本図書館の一部はアトリエなどの創作活動が出来るようになっており、写真展などの展示会も開催できる設計となっている。会場使用料金を徴収し、そういった場として提供する事で、様々な人に利用してもらう事ができる。また畑山夢楽実行委員会が主催となり、畑山地区の自然に触れるイベントや、地元住民との交流の場となるようなイベントを計画する事で、畑山の魅力を知ってもらう機会を設ける事が出来る。

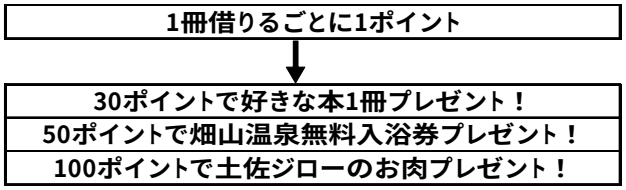


図 6.ポイントカードの利用例

主催:畑山夢楽実行委員会

イベント	内容		
田舎体験	ユズ取り	田舎コンニャク作り	
読み聞かせ会＋遊び	昔遊び	川遊び	魚釣り
創作教室等	俳句教室	押花教室	星空教室

図 7.イベントの開催例

こういったイベントを開催し、また定期的に寄贈本図書館への書籍の提供を呼びかける事で、寄贈本図書館の存在を知ってもらう事が出来、大きな宣伝効果がある。（図 8.参照）

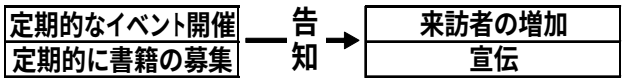


図 8.イベント等がもたらす効果

イベント等の情報はテレビや新聞などのマスコミを通じて発信する。「寄贈本図書館」づくりの際も、マスコミを通じて発信し、非常に多くの本が集まった。

また、平日の図書館利用者を確保するために、高知県東部の小中高等学校と提携し、課外授業の場として利用してもらう。

さらに畑山地域だけでなく、高知県東部全体の交流人口の増加を図る為に、スタンプラリーなどのイベントを開催するなど、周辺地域と密に連携を取る事が重要となってくる。

寄贈本図書館を利用する人が増えるという事は、畑山地区に訪れる人が増えるという事である。畑山地区に訪れた時に「良い所だな」「ここに住んでみたいな」と思う人が増えるように、地元住民たちも努力しなければならない。そうする事で畑山温泉の利用客の集客にもつながり、地域の活性化にもなると考える。